

むつ湾フェリー株式会社 新造船 かけはし就航
—津軽半島と下北半島をつなぐ— 青森県を巡る旅に便利な横断航路

快晴に潮風薫る4月9日、青森県の津軽半島陸奥湾側に面する外ヶ浜町にある蟹田港で、むつ湾フェリー株式会社の新造船「かけはし」の竣工式典と船の内覧会が開催され、関係者をはじめ、フェリーを利用する多くの地元住民が、新たな船出をお祝いした。

むつ湾フェリーは、青森県の津軽半島にある東津軽郡外ヶ浜町の蟹田港と、下北半島にあるむつ市の脇野沢港を約60分で結ぶカーフェリー。

新造船「かけはし」は長崎県佐世保市で建造され、総トン数396トン、旅客定員が240人、乗用車なら20台、大型バスなら4台と乗用車7台を積載できる構造で、航海中の横揺れを軽減するためのフィンスタビライザーを装備している。

新しい船の客室は、大きな窓からイルカウォッチングや陸奥湾の景色を楽しめるように工夫されているほか、キッズスペースやベビールームもあり、親子連れで海の旅を快適に過ごすことができる。

客室のインテリアも青森県独特の雰囲気を感じることができる「金魚ねぶた」を飾り付け、客席シートには青森特産のりんごや八幡馬がデザインされている。

船名の「かけはし」は、公募で決定され、下北半島と津軽半島、青森県と全国、そして世界中をつなげる架け橋になってほしいと願いを込めて名付けられた。

青森市から津軽半島を回り、フェリーで陸奥湾を横断すれば、脇野沢港から下北半島を巡ることができ、自家用車やレンタカーを利用して青森県をぐるりとまわる旅には、この航路が便利で欠かせない。

長期休暇で家族や友人と青森県の旅行を楽しむ時は、ぜひ利用してほしい。4月21日から「かけはし」の運航が始まった。ただし、週に1~2日の運休日があるので、旅行を計画する時には事前に確認することも忘れずに。

「海員だより」